小正月の行事

はだかまいり

匝瑳探訪

―44―

新年・正月は、新しい年への期待や願い、そして決意など人びとの気持ちを高めるようです。

毎年、ほぼ同じ日に決まってくり返される年中行事は、消滅したものも多いとされますが、正月の伝統行事は市内各地域で続けられています。

今年10月に千葉国体が開かれますが、前回「若潮国体」が開かれた昭和48年前後には千葉県をアピールする雰囲気のなかで県内各地の物産や伝統行事、歴史や文化を紹介する本が出版されました。

市内飯高地区小高（おだか）で正月厳寒の夜半にくり広げられる「はだかまいり」もこの頃から新聞報道などで広く知られるようになりました。

小高地区の日蓮宗・妙長寺門前にしめ縄を張り、そこで下帯姿の若者が頭から水をかぶって身を清めます。そのあと少し離れた八坂神社にはだかでおまいりすることから「はだかまいり」あるいは「はだかまつり」と呼ばれるようになりました。

これを初めて取材した40年前には何のための行事かわかりませんでした。

当時「奇祭」などと報道されましたが、ほどなく日蓮宗には「水行」という同様の修行があることにヒントを得、当時は正月14日の夜半に行われたことから、「小正月（こしょうがつ）」の行事と考えました。

初めは妙長寺の住職が水をかぶって身を清めたあと、村の鎮守に初詣をすることにならって村びとも「はだかまいり」を行うようになったのではないかと考えられます。

小正月は元旦の大正月に対し、正月14、15日を中心とするもので、地域によって様々な呼び方があり、行事も多彩とされます。松山神社（匝瑳地区）の「筒粥（つつがゆ）占い」やかつては各家いえで行った「だんごならし」なども小正月の代表的な行事といえます。

40年前の地区の古老からの聞き取りで、「水ごりのあと現在では八坂神社にしかおまいりしないが、戦前は村社・諏訪神社にもしたこと」「戦時中は村の男性が出征したため、絶やさないようにと女性も水をかぶっておまいりしたこと」「風紀が乱れるとの警察からの注意があったこと」などを記憶しています。

また、満月の夜に山車（だし）を村中引き回したあと、水ごりがあったことなどなつかしく思い出されます。

問 八日市場図書館☎73・3746

厳寒の中の水ごり